

高野山町石道

高野山へ登る道は昔から七つあります。このうち、京都から入る道が表街道で、「高野街道」と呼んでいます。高野山の麓にある慈尊院から百八十本の石の塔婆を拝みながら登っていきます。いわゆる「町石道」です。

正和二年(一三一三)八月の古文書によれば、後宇多天皇の高野山御幸は慈尊院を午前二時に出発し、笠木で夜明けになって朝粥を召されました。日中は雷雨に見舞われ、花坂で疲れて動けなくなり、医師の処方にてしばらくご休息の後に出発なされました。

下半身が泥まみれの御幸にて、お付の者は籠をすすめますが、後宇多院は、「多年の宿願にて朕は徒歩の覚悟がある。一步一步の足もとに八葉の蓮台が開き、無量の罪が滅ぼされる。いくら日数がかかろうともこの修行はゆるめない」と仰せられ、その勅語に一行は随喜の涙にて退心をひるがえし、高野山参詣を無事に果たされました。

後宇多院は百八十本の塔婆を至心に拝まれての御幸でしたので、高野山伽藍へのご到着は夜になりました。およそ十八時間前後の登嶺であろうと推測されています。

秋の三連休は、高野山道路の上下線がいつも大渋滞を起こします。高野山、龍神温泉、白浜温泉を結ぶスカイラインが紅葉見物で行楽客が集中するからです。二十キロの町石道は車道と三ヶ所ほどで交差し、中世時代の森閑とした参詣道から車道に出たときの文明の轟きは、まさに欲望の渦巻く娑婆世界に戻ったような、面白い感覚を味わうことができます。世界遺産に登録されたこの道を、海外の若い人たちが多く登っています。